

# 第25回 鉄道死傷事故ゼロの日 2024年2月1日

## ——「落ちない駅ホーム」早く！——

視覚障害者の駅ホームからの転落事故は後を絶ちません。2010年からこれまでに883件の事故が起き、21人が命を失っています。

### 鉄道死傷事故ゼロの日とは

1973年2月1日に、全盲の上野孝司さんが、国鉄（当時）山手線高田馬場駅ホームから転落し、電車に轢かれて死亡した日を記念して、全視協が提唱しています。

遺族が国鉄（当時）を訴えた裁判では、視覚障害者と国鉄労働者の大きな運動が起こり、点字ブロック普及の原動力となりました。事故から40年後の2013年12月 JR 高田馬場駅にホームドアが整備されるなど、徐々にではありますが、「落ちない駅ホーム」が広がっています。

### 運動が駅を変える

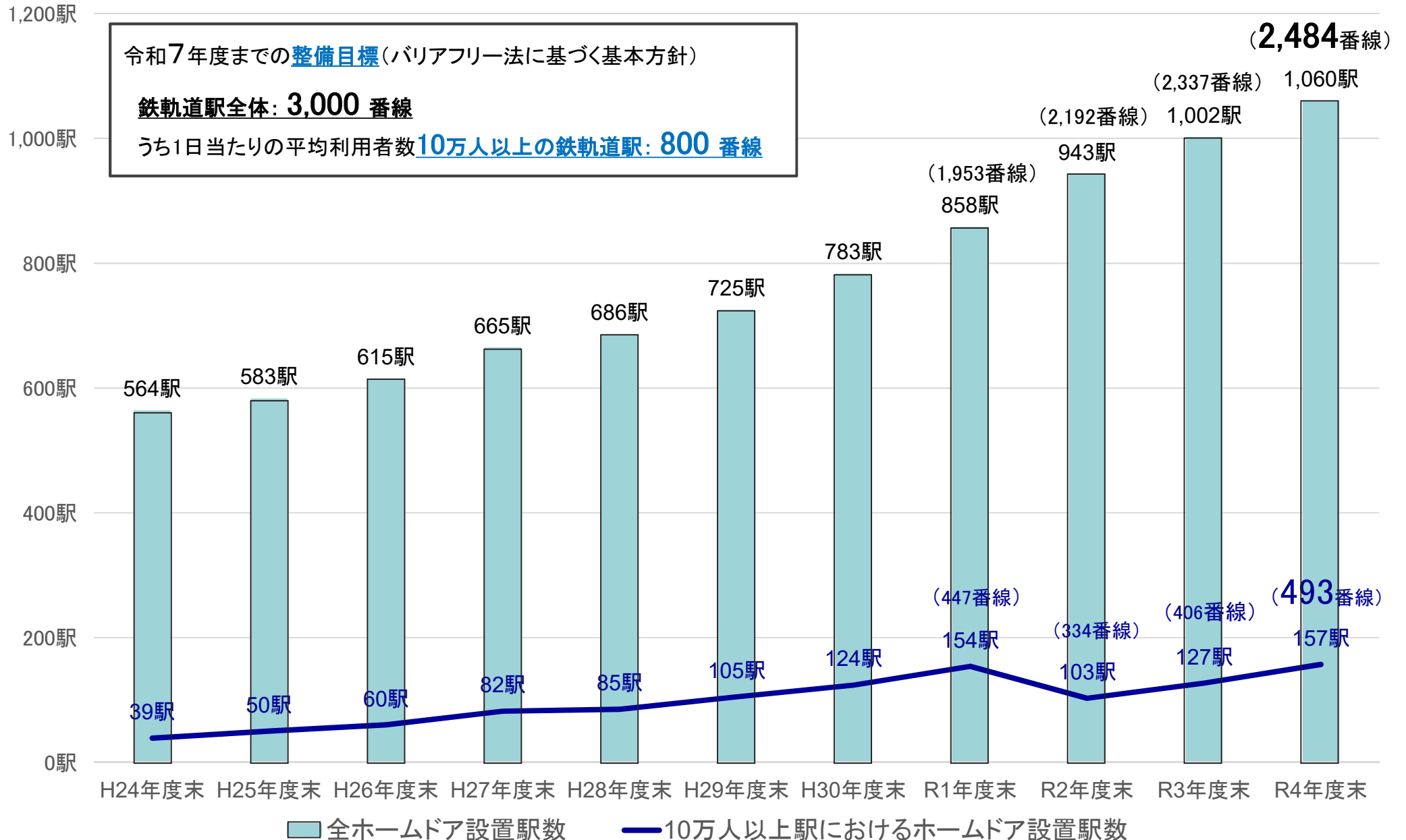
国や鉄道事業者などへの視覚障害者の運動と世論の後押しで、バリアフリー法が整備され、2022年3月末現在で1060駅にホームドアが整備されています。しかし、同省のまとめによれば、2022年度に事故は61件起きています。

### ホームドア整備、ホーム要員増やせ

「落ちない駅ホーム」の実現は、まだまだこれからです。ホームドアの整備といっても大都市圏だけ。国や鉄道事業者は、視覚障害者に対する声かけや誘導を進めるとしてはいますが、駅員を減らし、モニターやインターフォンで対応する「お客様サポートコールシステム」が導入され、係員のいない無人駅は、全国平均でほぼ5割に上っています。

「落ちない駅ホーム」の実現のため、「国の責任で全ての駅に可動柵を」「駅要員の増員を」。利用者の声と運動をいっそう大きくしていきましょう。

# ホームドア設置駅数(番線数)の推移



※1 新型コロナウイルスの影響により、鉄道利用者数が減少したことから、令和2年度における「10万人以上駅におけるホームドア設置駅数(番線数)」が減少。  
 ※2 ホームドア設置番線数については令和元年度より集計。